

No.15	高度化		
氏名	伊井 勇	社会学研究科	M2
1. 出願時のテーマ・目標を具体的に記述してください。			
出願時のテーマは、「発達障害児の社会スキルを高める作物栽培—生活自立に向けた体験活動」であった。具体的には発達障害児との作物栽培や収穫・加工などの体験活動を通じ、生活自立に向けた社会的なスキルの獲得を目指すことを目標とした。			
2. 上述のテーマ・目標を実現するために実施した計画を具体的に記述してください。			
実施内容は次の通りである。2020年6月ブルーベリー狩り体験。同年7月エダマメの定植体験、ジャガイモの収穫体験。同年8月ネギの収穫・皮むき（加工処理）体験をおこなった。			
5. 今回（今年度）の取り組みについて、今後の活動展開と展望を記述してください。			
農業体験の機会は、子どもたちにとって貴重な経験となることがわかった。発達障害児支援の観点から本活動を評価すると、具体物を目の前にした体験の機会ということに大きな役割があった。今後も発達障害児ひいては特別な教育的ニーズのある子どもを対象にした研究活動を継続する。その研究活動の過程において、今回の活動から学んだ具体物を通じた活動を展開していきたいと考える。また、上記のような活動を今後も展開する理由としては、昨今の子ども期の育ちの歪みが指摘される社会背景が大きく関係する。子どもの遊びがバーチャル化し、人間関係も希薄になる今日において、こういった活動の意味は大きくなっていると考えたためだ。加えて、発達障害児支援に関して言えば、発達障害児は抽象的な事物の理解に困難さをみせることが少なくない。そのため、このような活動には一定の支援に関する意味も含まれる。			
6. 今回（今年度）の取り組みは、今後の学びや進路にどのように影響しますか。			
今後は博士後期課程に進学する予定である。子どもの育ちを1つのキーワードとして研究を進めて行く予定である。実際に、本活動を通じて、子どもの遊びがバーチャル化し、人間関係も希薄化とも取ることができる現象を目の当たりにした。本活動における取り組みは、子どもの育ちと社会背景を関係づける際に、作用すると考える。			
7. 今回（今年度）の活動が周囲に与えた影響（社会・周囲）への貢献・還元の点で記述してください。			
今回の活動は、発達障害児が利用する施設である放課後等デイサービスの協力を得て活動した。発達障害児は、健常児と比べて体験的な経験が乏しいとされる。当施設での活動内容ともなり、利用児の保護者は多様な体験機会を得たことに満足している様子がみられた。また当施設への貢献としては、通常とは異なる活動場所になることで、利用児の新たな支援ニーズの顕在化としても作用した。			

3. 個人の成長の軌跡3-1. 取り組みの過程でどのようなことがあったのか、グラフを作成してください。

3-2. グラフで書いた☆（個人がもっとも成長したと思うポイント）では、その過程で学んだこと、気づいたことについて具体的に書いてください。

新型コロナウイルスは、自分にとって大きな転換期となった。計画的に物事を進めたいと考えることが多いが、自分以外の理由によりそれが断念されることはあまり経験したことがなかった。本活動では、それが起きた。自分1人ではどうにもならないことがあるということを実体験を通じて学び、また以下で示しているように周囲の支えを受け、人間関係の必要性に気づききっかけとなった。

3-3. “今回（今年度）の取り組み”と“正課の学びや取り組み”は、どのような関連や影響（相互作用）がありましたか？

正課の取り組みとして、研究があげられる。研究としては、特別な教育的ニーズのある子どもの地域生活について検討を重ねている。そこでは具体的な経験の希薄さや直接的な人間関係によるコミュニケーションの必要性の明確化を試みた。それらの必要性を明確化し、子どもの発達に向けた次なる実践課題として本活動のような農業体験による機会を備えることは1つの潮流として示すことができる。問題の明確化・顕在化とその問題を解決するための実践内容として相互作用をみることができる。

4. 本奨学金を受給したことで、以下の項目についてどのような影響を与えたか5段階で評価してください。（該当ナンバーに○）
また、併せて評価の理由も書いてください。 評価例：【 1（達成できなかった） ← 3（どちらともいえない） → 5（達成できた） 】

① 目標の達成度	3
<理由> 新型コロナウイルスの影響で当初予定していた計画をすべて実行することは出来なかったため。	
② 計画の達成度	3
<理由> 2020年度春学期の計画はおおむね計画を実施することができた。他方、後期は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として課外活動等の規制が本格化したこと、冬季になり新型コロナウイルスの感染が拡大したことにより計画の実施が難しくなったため。	
③ 取り組みを通じた自己成長	4
<理由> 新型コロナウイルスにより活動内容は制限された。しかし、自己成長の観点においては、自分ではどうすることもできない事柄についての対応力という面の成長を感じることができた。	
10. 今年度の取り組みを通じて最も身についたと思う力について、具体的に記載してください。9の設問で回答した力でも、それ以外でも構いません。	
① 身についた力	④ストレス・コントロール
② ①で記述した力について具体的に説明してください	
これまでの自分は、時間的な制約により、計画や予定が達成されないことはあった。しかし、自分の状況は万全であっても実行することができない新型コロナウイルスの影響を正面から受けた。これははじめての経験であり、自己をコントロールする力が以前より備わったように思う。	
③ なぜその力を身につけることが出来たのか、成長を手助け・促進させた要因を記載してください	
自分以外の社会的な状況を客観視する必要に迫られ、それに応じる形で身についたのだと考える。成長を手助けした要因としては、当活動の実施を容認して下さった放課後等デイサービスの存在である。新型コロナウイルスの影響により計画通りに進まないことも受容して下さり、その都度利用児の保護者との連絡をとって下さった。これは、自分だけでは成せないこと知る経験となり、これを通じて周囲を客観視できるようになったのだと思う。	